

# 十五夜の月見団子の隣はススキ？ オギ？

ふじのくに地球環境史ミュージアム 准教授

早川 宗志

十五夜は旧暦の8月15日の夜のことを指し、中秋の名月とも呼ばれる。新暦の現代では、9月中旬～10月上旬のいずれかの日（満月の出る日）であり、年によって日が異なる。この十五夜では、お月見をしながら団子をお供えする風習がある。団子の数は、15個の地域が多い。団子の数や形には地域性があり、例えば、静岡県ではヘソモチ（もしくは、ヘソ団子）という円くて平たい部分の中央を指で押して凹状にした団子がお供えされる（富山 1981, 大島ら 1983）（図-1A）。この月見団子のお供えには一緒にススキ、ハギ、キキョウ、オミナエシといった秋の七草やカキやクリなどの果物が飾られる（例えば、大島ら 1983; 三田市総務部市史編さん課 2004）（図-1B）。

ススキは日本の秋を代表する草原生の多年生草本である。ススキの開花前線は、秋の訪れとともに北から南の地域へと南下し、同一地域では高地から平地へと訪れる。このススキの開花期に関する地域性は遺伝的に固定しており、自生地域から移植した先でも、本来の地域の早晩性に応じた開花の順番を維持する。三重県津市で栽培した日本各地から収集した

ススキ個体の出穂期は、高緯度および高地が早生型、低緯度が晩生型、太平洋側の海岸が極晩生型であった（足立 1958; 村松 1976）。著者も日本各地から収集したススキを茨城県つくば市で栽培したところ、現地における開花の順番を維持することを確認している（早川 2017, 図-2）。

気象庁が実施している生物季節観測値におけるススキの開花日は、おおむね、東北地方が8月上旬から、九州南部が9月末までに、琉球諸島が10月である（気象庁：<https://www.data.jma.go.jp/sakura/data/index.html>）。南九州のススキの開花日（9月末）は、中秋の名月（9月中旬～10月上旬）の頃がちょうど西南暖地の開花前後にあたる。そのため、西南暖地では、9月中旬と早くに中秋の名月を迎える年は、ススキがまだ穂孕期で開花に至っていないことがあるはずだ。

そのような場合、月見団子の横のススキ飾りはどのように調達がなされるのだろうか？ 疑問に思っ 2015 年に愛媛県、高知県、宮崎県に在住の知り合いを通じて、十数名の大学生・教員等に実家の十五夜のススキ飾りについて聞いてみたことがある。すると、月見団子にはススキを飾るという回



図-1 十五夜に飾られるススキ。  
A：ススキとヘソモチ（静岡県静岡市，2024年9月17日），  
B：ススキとハギ，果物，芋（和歌山県橋本市，2015年9月28日）。



図-2 日本各地から移植したススキの栽培条件下における開花状況（2014年11月11日，茨城県つくば市）。ススキは元々の採集地の開花の順番を維持するため，各系統の開花は不揃いである。

答が主であったが，オギという回答もあった。イネ科ススキ属のオギは日長感受性が低いため，全国ほぼ同じタイミングで開花する。この開花特性により，ススキがまだ開花に至っていない西南暖地では先に開花しているオギが十五夜の飾りにはちょうどいいのであろう。

さて，オギという回答は事前に予想をしていたが，驚いた回答もあった。それは，観賞用に植えられているイネ科のパンパスグラスを飾るという回答が，愛媛県と宮崎県から各1件を得たのだ。理由を聞いてみると「親がイネ科であれば大丈夫ということで用意した」という旨であった。巨大な穂をもつパンパスグラスを飾ることでススキが開花に至っていない年でも十五夜を無事に迎えることができているようである。

他方，ススキの開花が8月上旬と早い東北地方では，十五夜を遅く（10月上旬）に迎える年は，ススキの穂が小穂を散布して穂軸だけになっていると思われる。そのため，東北地方ではススキより遅く咲くオギを飾る家庭も多いのではないかと予想しているが，まだ聞き取り調査をしていない。

ススキの系統地理学的研究では，日本本土の在来系統には3つのクラスターが存在し，徐々にクラスターが置き換わることが示されている（Clark et al. 2015）。また，核遺伝子ならびに葉緑体DNAを用いた系統地理学的研究から，日本のススキは南方から北方へと分布を拡大してきたこと，日本本土へは南方から複数回の移入をしてきたことが明らかとなっている（Shimono et al. 2013; Hayakawa et al. 2014）。これらの系統地理学的研究の結果と開花期の地域性を合わせると，ススキは南方から日本本土へ進出後に，日長感受性を獲得して早生化しながら北上していったと考えられる。

このように，ススキの在来系統はその地域に適応した開花

期を持っている。十五夜のススキ飾りという日本の民俗・年中行事にも，地域の自然史との関わり合いが息づいていることを示す事例であろう。

## 謝 辞

十五夜に飾るススキ等のヒアリングにご協力いただいた方々に感謝します。

## 参考文献

- 足立昇造 1958. ススキ属植物の試料作物化に関する育種学的基礎研究，三重大学農学部学術報告 17：1-122.
- Clark L. V. et al. 2015. Genetic structure of *Miscanthus sinensis* and *Miscanthus sacchariflorus* in Japan indicates a gradient of bidirectional but asymmetric introgression. *Journal of Experimental Botany*, 66: 4213-4225.
- 早川宗志 2017. 外来および在来ススキの系統地理学および分類学的研究，*雑草研究*，62：58-61.
- Hayakawa H. et al. 2014. Phylogeography based on nrDNA ITS regions of native *Miscanthus sinensis* (Poaceae) populations in Japan. *Weed Biology and Management*, 14: 251-256.
- 三田市総務部市史編さん課（編）2004. 三田市史 第9巻 民俗編，三田市.
- 村松正幸 1976. ススキ属植物の個生態・育種，in ススキの研究－日本のススキとススキ草地－，平吉功先生退官記念事業会，岐阜，pp. 111-158.
- 大島暁雄ら 1983. (6)月見の祭り，in 図説 民俗探訪事典，山川出版社，東京，pp. 155-158.
- Shimono Y. et al. 2013. Phylogeography based on intraspecific sequence variation in chloroplast DNA of *Miscanthus sinensis* (Poaceae), a native pioneer grass in Japan. *Botany* 91, 449-456.
- 富山昭 1981. 十五夜・十三夜(月見)，in 静岡県の年中行事，静岡新聞社，静岡，pp. 199-204.